

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2016  
**夏**  
No.34

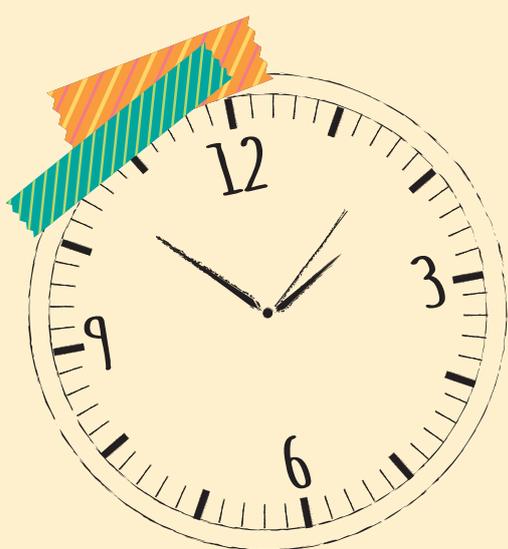
# JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人  
上越教育大学  
Joetsu University of Education

学園だより



特集

## 上教大生の

## キャンパスライフ



# 上教木サイコー!!



## 夢を叶える最高の環境

上教大のカリキュラムは、どれもが教職を志す学生にとって心強いものです。なかでも、私が特に教職の魅力を感じたのはこのふたつでした。

### 子どもたちの「リアル」を見る

「学校ボランティアA」では、近くの小学校に行って学級に入り、子どもたちの学びのサポートや、先生方のアシスタントをします。子どもたちと定期的にふれあえる、貴重な経験です。

私は3つの協力校すべてに入らせてもらいました。実際の教室は「経験知」にあふれています。子どもたちの様子を目の前で見て、ひとりひとりの考え方の違いに感動を覚えること、学ぶことの連続でした。先生方と子どもたちのやりとりから、学校・学級ごとの違いを肌で感じ、自分の教職観や理想の教員像を新たにすることができました。

### 教わる側から教える側へ

「教育実地研究II」は1年を通して教職の細部まで学べます。なかでも年2回の「模擬授業」は一大イベントです。上教大生はここで初めて実際の授業を作り、みんなの前で発表します。1年の締めくくりには「模擬授業コンテスト」が行われ、私は最優秀賞をいただきました。いかにわかりやすく興味を持てる授業にできるか、自分自身で追求するだけでなく、現場経験豊富な大学の先生方にもたくさん相談させていただきました。私の目標は参加型の授業を作ることでした。私が表現したことを受け取って、反応が返ってくる中で、受ける側とともに授業を作る楽しさを感じました。

### 自分を見つめて

今は小学校実習に向けて準備を重ねています。子どもたちから、先生方から、仲間から学ぶという姿勢を忘れずに、自分らしい「先生」を目指していきたいです。



学部3年  
言語系コース(国語)  
稲垣 樹里 さん

## 特別支援教育の

## 目指すところ

# 研究室



### 特別支援教育との出会い

特別支援教育に関心を抱くようになったのは、私が学部生の頃でした。当時は、異文化に関心があり、東南アジアの国であるミャンマーの文化について勉強していました。その国の人々の考え方もっと深く理解したいと思い、実際に何度が現地を訪れたこともあります。その訪問中である孤児院の支援も行っていました。その訪問の中で、必要なことを学ぶことができた。募金や物資による支援が中心で、果たしてこのような支援だけで子どもたちの将来のためになるのだろうかという疑問を持つようになりました。その時に感じたのは、子どもたちが大きくなったときに自立して生活が送れるように、必要なことを学ぶことができる機会を作ることが重要なのではないかということです。また、子どもたちの中には、今思えば知的障害があったために、勉強についていけない子どもたちがおり、そうした子どもたちに対して共に社会を構成する一市民として自分が何をしてあげられるのかと打ちひしがれた思いになったことから私の特別支援教育への道が始まりました。



能力をうまく発揮できない子どもたち

知的障害や発達障害のある子どもと触れてみて感じるのは、彼らが優れた一面を持ち合わせているということです。とても社会的に優しい気持ちを持った子どもも多いという点に優れた子どももいます。問題だと感じるのは、優れた点も含めて自分の能力を発揮する方法を知らない子どもたちが多いということです。もちろん自分の能力を発揮することも能力の一つと言えます。それが私が専門とする「実行機能」です。実行機能という観点から、環境をどのように整え、周囲の人たちがどのように関わってあげれば、子どもたちが能力を発揮して、自分の生活を自分でコントロールしているという意識を持つことができるようになるか、それによって自信に満ちた生活を送ることができるようになるかを実践的指導を通して考えるのが、私たちが研究室で取り組んでいることです。



池田 吉史(いけだ よしふみ) 臨床・健康教育学系 助教

専門は発達心理学・障害心理学。佐賀県出身。東京外国語大学卒業後、東京学芸大学大学院に進学し博士号(教育学)を取得。日本学術振興会特別研究員(DC1)を経て、平成26年4月に本学に着任。平成27年10月より兵庫教育大学大学院連合学校教育学専攻を兼任。日本心理学会学術大会特別優秀発表賞受賞。

# 上教大生の キャンパスライフ

うらさんの1年



学部2年  
教職デザインコース  
橋本 うららさん  
東京都出身

高校ではバレーボールだけ追っかける日々でした！大学では今しか&新潟でしかできないことをたくさんするぞ！

**自** 炊の習慣、家族と離れて一人での生活に慣れる！クラスの友達といつも一緒に行動していた気がする！

**体** 操部とフラガールに入った。部活や学びのひろばの先輩など知り合いが一緒にふえて人の輪がひろがった。

※1 フラダンスの課外活動団体  
※2 学生の自主活動。子どもたちとレクリエーションなどを行う。

**学** びのひろばで初の企画チーフを経験した！自分の作業だけでなく、クラブ全体の予定を立てたり、先輩や友人に仕事を依頼するので、責任感が身についた！

**体** 育でプール授業！大学でプール授業があるのは珍しいと思うけど、これも教員養成大学ならではの。



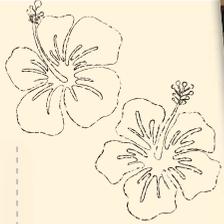
**仲** 良しの友だちと長岡花火を見に行った！新潟に来てよかったです改めて実感しました！！



**フ** ラガールで大学祭に出たこと♡直前までの朝練の成果が発表で出せたことが本当に嬉しかった。

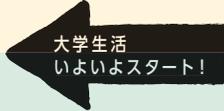
**子** どもたちと一緒に泊れる自然の家のボランティア！富山や長野でもあって他大学の学生と交流できるから、学内だけじゃなくても外にも目を向けなくていい！という気持ちになったよ。楽しくて何回も行った！

**表** 現の授業で劇を作った！複数人でものをつくる大変さが身に沁みる…たくさん話し合いを経て無事完成！みんなで乗り越えたよ！



**全** 国フレンドシップ活動で日本各地の仲間ができた！「前向きな話し合い」のノウハウを学んだ気がして、自分の考えが大きく変わった！

※4 全国の教員養成系大学が参加し、学生や子どもたちが交流する。



学部2年  
言語系コース (英語)  
橋本 悠希さん  
群馬県出身

高校では陸上部だったので、ひたすら走っていました。大学は、新しい部活、活動にどんどん挑戦していきたいと思います！

**入** 入学式、クラス発表。新しい環境での生活が始まった！教える側の視点での授業が新鮮！

**バ** ドミントン部、JACに入部!! 楽しくて愉快的仲間たちや尊敬できる面白い先輩がたくさん！

※3 上越アドベンチャーサークル

**学** びのひろば、初めての活動日!! 大変だったが、先輩方の子どもたちへのほめ方や注意の仕方、手遊びなどとても勉強になった！子どもたちはかわいかった！



3月 2月 1月 12月 11月 10月 9月 8月 7月 6月 5月 4月

**オ** ーストラリアでの海外研修！大学のプログラムでオーストラリアの小学校で授業をした。英語をもっと頑張ろうと感じた！

**は** じめでの大学祭！バドミントン部で焼きうどんの店を出した！ひたすら作った！



**チ** ャリティーサンタに参加！上越の子どもの家にサンタクロースの格好をしてプレゼントをお届け！子どもたちの喜ぶ顔が嬉しかった！

**全** 国フレンドシップ活動。岐阜聖徳大学で全国の熱い仲間たちと出会う。教育についてや、リーダーになっていく上での悩みなどを熱く語り合った！



**全** 国教育系大学 バドミントン選手権大会  
全国の教育大学のバドミントン部と楽しんだ！



特集 上教大生の  
キャンパスライフ



3月	2月	1月	12月	11月	10月	9月	8月	7月	6月	5月	4月	前期 4月1日～9月30日
・卒業証書・学位記授与式	・後期末試験 ・集中講義・補講	-	-	-	・創立記念日 ・教員養成課程学生合宿研修 (学部3年次)	・学部1年次観察・参加実習	・前期末試験 ・集中講義・補講 (本実習)	-	・就職試験受験者激励会	・学部4年次中等教育実習 (観察実習)	・新入生オリエンテーション ・新入生合宿研修(学部1年次)	・入学式

2人今後の目標は何ですか？  
橋本悠希(以下悠希)・・・毎日を楽しんで生き生きとしたいと思います。講義をしっかり受け、部活も楽しんで、バイトもちゃんとしたいです。  
橋本うらら(以下うらら)・・・私の目標は、人の輪を広げることです。  
うらら・・・学内・学外問わず、学びのひろばや自然の家のボランティアのように、いろんなことに挑戦して関わって行こう、という事です。  
そのために何かしていることはありますか？  
うらら・・・誘われた時にはオッケーしたり、フットワークを軽くして・・・なんかそいうう精神かな。

なるほど。悠希さんは毎日を楽しむために、具体的にしようと思えていることはありますか？  
悠希・・・僕もいろんなことに挑戦していきたいと思えます。例えば所属しているJACでは、キャンパやボランティアがあつて楽しいだけでなく、企画や外部との交流、施設の使用など学ぶことがたくさんあります。知識や経験をもっと増やして充実した大学生活を送りたいです。  
それは良いですね。うららさんの挑戦したいことというのは、具体的に何かありますか？  
うらら・・・フラガールが私たちの代になったときに、自分たちでも新しい発表先を探しに行ったり、宣伝も工夫してもっとアクティブにしていきたいです。これは一つ

の例えですが。  
悠希・・・フラだけに一心不乱で頑張りたいです。  
うらら・・・(苦笑)  
2人とも、勉強面については？  
悠希・・・それ(勉強に励むこと)はもう前提としていうか、当たり前なことだと思います。  
うらら・・・上教大の講義は科目を選ばず、教員になる！子どもたちに教える！という意識を学んでいることをいつも感じます。なので勉強した知識の他にそういった意識も育てていきたいです。  
悠希・・・受け手になる勉強以外にも、積極的にこなしていきたい。自分でやりたいことをしたいですね。

インタビュー 今後の目標は？



空き時間は昼寝もすてきだけれど、色々なことに首を突っ込んでみたいと思います。ただ、昼夜逆転するような過ごし方は良いことがないので要注意です。私は早起きが好きなので、余裕があるときに学校の周りを散歩やジョギングをします！気持ちいいから本当におすすめです。笑

1年を振り返って.....

1年前は受験のことしか頭になくて、上教大に入ってからも何がしたいか自分でも分からないまま新しい環境に流されて過ごしてきました。大学が高校と大きく違うところは、やるかやらないかを選ぶ自由度だと思います。周りのへんちくりんでとってすてきな先輩や友達に囲まれて過ごしたおかげで、私自身の物事に向かう姿勢も人への接し方も変化があつたと思います。無我夢中で1年間過ごしてきたけれど、この振り返りをきっかけに改めて家族や周りのみんなに感謝の気持ちを忘れてはいけないと実感しました。

うららさんの1日



大学生は高校生に比べて、空き時間が多くあるので、その時間の有効活用が重要だと思います。かといって、忙しすぎるのも大変なので、課題やアルバイト、遊びをうまく入れると、充実した大学生活を送れます！

1年を振り返って.....

大学でたくさんの人と関わり、たくさんの活動を経験して、大袈裟に言えば、生き方が変わった気がします。今まではただ毎日過ごしていましたが、色々なことに挑戦してこうというチャレンジ精神を育むことができました。

3

### グラウンド

- 1 学部2年・自然系コース(数学) 牧井 郁歩
- 2 グラウンド
- 3 私のお友だから。
- 4 走ってる。



4

### 図書館下

- 1 学部2年・自然系コース(数学) 末吉 ひかり
- 2 図書館下
- 3 友人と一緒に自由に課題をしたり、サークルの話し合いをしたり図書館で借りた本を読んだりなど、様々な場面で利用できるから。
- 4 友人と一緒に課題をしたり、おしゃべりしたり、自由な時間を満喫しています。



5

### 金魚池のへり

- 1 学部4年・学校臨床コース(学校心理) 白井 沙也子
- 2 金魚池のへり
- 3 金魚の社会性が観察できるから。
- 4 いじめられている金魚を助ける!



2

### 数学院生室



- 1 大学院2年・自然系コース(数学) 竹本 尚人
- 2 数学院生室(自然棟7階)
- 3 自分の椅子と机があって家みたいで落ち着く。
- 4 研究と、友達との会話を楽しむ!!

6

### 音楽棟301

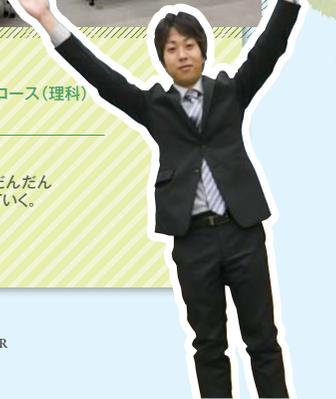
- 1 学部2年・言語系コース(国語) 田中 雅人
- 2 音楽棟301教室
- 3 好きな時間に楽器の練習ができる。
- 4 楽器の練習、課題。



1

### 講義棟301

- 1 学部3年・自然系コース(理科) 平田 真大
- 2 講義棟301教室
- 3 段になっていて、だんだん授業に気合が入っていく。
- 4 授業。



### 編集後記

意外な場所ができて、インタビューをしていた私たちも楽しかったです。協力してくださった6人の皆さん、ありがとうございました!

- 小森 加成江 学部2年 自然系コース(理科)
- 平山 茜 学部2年 学校臨床コース(学校心理)



学生がつくる上教大生のひろば

# 構内でいちばん好きな場所!



### 質問内容

- 1 学年・コース・名前
- 2 好きな場所
- 3 理由
- 4 そこに行ったら何してる?

ストイック集団!!

練習時間は1日2時間半程度、使えるのはバスケットコート一面という限られた時間と環境の中でその時々で自分たちにできること、やらなくてはならないことを考え、内容の濃い練習を心がけています。練習の時には、先輩・後輩関係なくプレーについて意見を出しあったり話し合いをして、より自分たちらしいバスケットができるように日々切磋琢磨しています。また、練習後には月・木曜は筋力トレーニング、火・金曜はシューティングに全員で取り組み個々の技術の向上とチーム力の向上を目指しています。

日々の練習 ~男子とともに練習に励む毎日~

上越教育大学のバスケットボール部は、日々の練習を男女一緒に行っているのが特徴です。現在女子バスケットボール部のプレイヤーは9人なので、女子だけでは行えない練習メニューもあります。特に試合形式の練習では男子バスケットボール部の部員に協力してもらいながら行っています。当然接触型のスポーツで体格や運動能力の差が大きくプレーに影響してしまうこともあります。しかし男



子とともに練習をすることで技術的に向上することもでき、いい刺激を受ける中で練習に取り組むことができています。

地域との関わり

上越教育大学のバスケットボール部では、通常の練習だけでなく、地域の小中学校のバスケットボールの大会への審判協力を行っていることも大きな特徴です。地域の子も達とバスケットボールを通して触れ合うことや審判活動といった経験は、将来教師になって部活を持つようになったときに活かすことのできる大変貴重な経験だと思えます。

年間数多くの大会に参加し、その大会に向けて日々真剣に練習に取り組んでいます。ぜひ応援よろしくをお願いします。



DATA

平成28年6月現在  
部員数/プレイヤー9名  
マネージャー2名  
活動頻度/週4回(月火木金)  
活動場所/体育館  
参加大会/北信越春季リーグ戦、北信越秋季インカレ予選、全国教育系大学バスケットボール競技大会、上越市民戦ほか  
大会戦績/北信越春季リーグ戦2部4位

【取材協力者】

学部3年 言語系コース(国語) 佐々木 なつみ

遊び込む子ども

上越教育大学 附属幼稚園



雨どい遊び



お寿司屋さんごっこ



池で生き物つかまえ



飯嶋 好 PTA会長

豊かな自然環境、主体的な遊びの中で、子どもの力が育つ園です。



「遊びは学び」を実感する園

幼児にとって「遊びは学びそのもの」です。豊かな環境の中で、思う存分たっぷり遊びながら、物事にかかわる意欲や人を思いやる気持ちなど、「生きる力の基礎」が育まれています。今年度は「遊び込む子ども」教育課程の創造」をテーマに研究を進めています。

園の魅力

- ◆園のすぐ裏は徒歩0分で森、みどりの小道やこども広場で思いきり自然と親しめます。
- ◆自転車乗りができる広い園庭、メダカやオタマジャクシがいる池、3つの砂場、何種類もの木々(実のなる木もあります)でいろいろな遊びができます。
- ◆保護者手作りの遊具や絵本、大小の積み木もいっぱいあります。
- ◆愛情とやる気に満ちた職員が、毎日笑顔で子どもの育ちを支えています。
- ◆今年度より、登園前7時40分からと降園後18時まで預かり保育を実施しています。



雪遊び



砂遊び



落ち葉遊び

MMS

MMSとは

そもそもMMSとは一体何なのでしょう。モダンミュージックソサイエティ? 正直バツとしませんね。MMSは軽音部です! 部員同士でバンドを組んで、好きなアーティストのコピーをしたり自分で作曲したオリジナル曲を演奏したりしています。月に1回のペースでライブを開催し、そのライブに向けて日々練習しています。ライブはグラウンド・プール横の共用施設、講堂や噴水前でも行っています。越秋祭(大学祭)では、野外ステージや体育館のステージで演奏をします。ライブだけでなく、パーベキューをしたり温泉旅行をしたりと部員全員が楽しめるイベントをしています。仲が良くワイワイ楽しい部員とのイベントは本当に盛り上がりです。

自分なりの音楽をしよう

部員のほとんどが大学から楽器を始めた人です。ギター、ベース、キーボード、ドラム。どの楽器も難しそうと思われがちですが、「好きこそものの上手なれ」こんな言葉があるように、皆さんメキメキと上達していきます。もちろんパーカールにチャレンジしてみるのも良し!

練習はグラウンド・プール横の共用施設2階で行っています。ライブハウスさながらの音響や照明などの機材を使うことができます。自分の空きコマなどの好きな時間に好きなだけ、ここで練習することができます。

みなさん遊びに来てください!

講堂や噴水前でのライブだけでなく、ぜひ共用施設でのライブにも遊びに来てください。必ず楽しいライブをお見せすることができるよう自信があります! 今まで知らなかった音楽に出会ういい機会になると思います。また、Twitter、Facebook、LINE ではバンド紹介やライブの告知をさせていただいていますので、そちらのほうもぜひチェックしてみてください。



DATA

平成28年6月現在  
部員数/学部生31名、院生4名  
活動日/不定期(自分の空きコマ)  
ミーティングは毎週木曜日の昼休み  
活動場所/共用施設2階  
活動実績/新入生歓迎ライブ、JAMフェス、サマーライブ、越秋祭ライブ、クリスマスライブ、上教大看護大ジョイントライブ、その他部内ライブ

【取材協力者】

学部3年 言語系コース(英語) 藤田 実希



研究紀要(平成25~27年度分)を発行しています。

遊び込む子ども

お茶の水女子大学人間発達教育科学研究所教授 文京区立お茶の水女子大学こども園園長 宮里暁美先生のご講演もあります。

幼児教育研究会  
月日/10月5日(水)

園開放デー  
8月27日(土)  
1月22日(日)  
両日とも9時~11時  
(園内でも外でも遊べます)

木曜園庭開放  
毎週木曜日  
14時30分~16時  
(園庭と森を開放します)

ぜひおいでください!  
遊びにきてね!

お知らせ

中華人民共和国  
駐新潟総領事館  
何総領事が表敬訪問

4月15日に中華人民共和国駐新潟総領事館 何平(平)総領事を始め、張松(張)教育領事、蔣春雷(蔣)政治文化領事、常逸飛(常)領事、アタッシェ(総領事秘書)の4名から表敬訪問を受け、学長及び留学生との懇談を行いました。学長との懇談では、両国間の留学希望学生の派遣、受入れや支援方法の在り方等について活発な意見交換が行われました。また、留学生との懇談では、何総領事から留学生に、「両国間として上越教育大学との交流発展に寄与できるよう、教育研究に取り組んでいただきたい。」旨の激励の言葉が掛けられました。

その後、参加した各留学生在が修学状況等を含めた自己紹介を行い、張教育領事から、中国における留学生に対する修学支援の現状や、進路・就職の際のアドバイス等をいただく等、予定した時間を超えて充実した懇談が行われました。



何総領事(左)と佐藤学長



留学生を激励する何総領事



教職大学院  
授業視察



学生と記念撮影

池田新潟県教育長が  
教職大学院の授業等を視察

平成28年4月1日に就任された新潟県の池田幸博教育長が4月25日に上越教育大学を視察されました。

佐藤学長と新潟県及び本学における教員の資質向上のための取組や連携等について懇談が行われ、その後、教職大学院教育臨床コース、教育経営コースと修士課程(グローバルICT・学習研究コース)の授業視察が行われ、アクティブラーニングやグループディスカッションの様子を見学されました。視察には、新潟県教育委員会から大野義務教育課長が同行されました。



サポート付きのプログラミング体験



自立型ロボットのプログラミング

ギークラボ上越  
キックオフイベントを開催

二十一世紀型スキル育成の一環として、地域の子どもを主な対象としたプログラミングやデジタルものづくり等のICTスキルに関する教育や体験活動プログラムの提供を「ギークラボ(GEEK LABO) 上越」として平成28年度から開始しました。その第1回目として、5月21日に、キックオフイベントを開催しました。

子どもたちと保護者総勢約50名が参加し、「自立型ロボットで遊ぶ!」「Scratch2.0によるゲームプログラムの制作」「オリジナルTシャツをデザインしよう!」「話題のP・ロボットをプログラミングしよう!」「いま流行のクラウドコンピューティングで自分だけのカードゲームをつくらう!」の5つのハンズオン(体験学習)の中から興味のあるものを選び、熱心に取り組みの様子が見られました。また、3Dプリンタやコーゲル型VR機器のデモも行われ人気を博しました。6月1日からはプログラミングのイベント等を実施しています。詳しくは、<http://globejuen.ac.jp>をご覧ください。

就職試験受験者激励会(出陣式)  
で学生を激励

6月15日に「就職試験出陣式」を開催し、6月末から始まる教員採用試験に臨む学生たちを激励しました。教採直前ガイダンス(今年は「こが狙われ」の後に行われた出陣式)には、100人余りの学生と教職員が参加しました。

佐藤学長は「平常心を持っていつもの力を出し切り試験に臨んでほしい。これまで積み重ねた努力を信じてほしい。」と激励しました。

激励パフォーマンスでは、後輩学生のアカベラサークルと、地元プロマジシャンによる「就職活動に役立つメンタリズム」と題したメンタリズムパフォーマンスが行われ、応援メッセージが送られました。

また、受験者を代表して学部4年の中間響さんは「教員採用試験に向けて不安なことはたくさんある。これまで経験してきたことに自信を持って自分らしく堂々と試験に臨みたい。」大学院修士課程の横田翼さんは「子どもと共に生きる教師を目指し、教員採用試験に向けて主力で取り組む。」と決意表明を行いました。

フレッシュメントラサ室長の廣瀬副学長からは、すべての皆さんが合格の栄冠を勝ち取ってくれることを心から祈念し、「GO! サムライ。いざ、出陣!」とエールが送られました。

最後に参加者全員が集合し、学長を先頭に「エイエイオー」の掛け声で必勝を誓い、参加学生には激励品として、就職試験合格祈願の鉛筆などが手渡されました。



必勝を誓う参加者

留学生が語る  
留学生と語る会を開催

6月22日に平成28年度留学生が語る/留学生と語る会を開催しました。

「恋愛」と「結婚」―国による家族観の違いを語ろう―というテーマで、留学生4名(喬宏成さん、韓緒さん、白麗萍さん、王代柔さん)と日本人学生2名の語り手(理想の結婚相手)に、結婚の現状等について語りました。

市民の方々にもお越しいただき、教職員、学生などを含め、約50名の参加がありました。

参加者からは「いろいろな方の考え方を聞いて、自分にとって恋愛観や結婚について考え直す機会になった。」「日本の恋愛観にとらわれていてはだめだと思えた。」「オーティエンスの意見が反映されるというシステムが素晴らしい。」などの感想がありました。



<理想の結婚相手>に話が盛り上がりました

「上越教育大学基金」  
ご寄附のお願い

上越教育大学では、法人の財政基盤の強化を図るとともに、独自の学生支援や教育・研究活動支援等の諸事業を推進し、本学の教育・研究機能の強化と魅力づくりに努めることを目的に「上越教育大学基金」を平成26年11月に設置しました。企業・団体、個人のみならず、皆様のご支援をお願い申し上げます。

- 基金が行う事業**
- 学生支援事業
  - 国際交流支援事業
  - 教育研究支援事業
  - 地域貢献事業
  - 附属学校整備事業
  - キャンパス環境等整備支援事業
  - その他法人の諸活動支援事業

- 税法上の優遇措置**
- (個人の皆様からのご寄附) 所得税控除等を受けることができます。
  - (法人の皆様からのご寄附) 寄附金の全額を損金に算入できます。

- ご寄附のお申込み**
- (振込用紙によるご寄附) 上越教育大学基金のホームページ「寄附申込フォーム」より、振込用紙をご請求ください。
  - (現金によるご寄附) 現金でご寄附を希望される方はお手数ですが、お問い合わせ先までご連絡ください。

- お問い合わせ先**
- 上越教育大学 総交流推進室
  - 上越教育大学 広報課内
  - 〒943-8512
  - 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学事務局2階
  - TEL: 025-521-6000
  - FAX: 025-521-6000
  - E-mail: [kikin@juen.ac.jp](mailto:kikin@juen.ac.jp)

## いい夏にしよう

夏が到来し、真っ青な空に白い入道雲が目に見え鮮やかな頃となりました。秋のいわし雲や冬の雪雲と違い、入道雲は気象学的には積乱雲に分類されます。夏の雲として代表的な入道雲が、山の峰のようにむくむくと湧き上がっている様子を雲の峰といいます。雲の峰を見ると、今は亡き父母や恩師の顔が浮かんで来たりします。

### 大の字に寝て見たりけり雲の峰 一茶

戸を開け放った座敷にごろんと大の字になって空を見上げたところでしょうか、それとも野原に寝ているのでしょうか。どちらにしても夏の暑さの中に大自然の鼓動を感じている様子が伝わってきます。



今から約40年前、鹿児島県池田湖を調査したことがありました。池田湖は薩摩半島の最南端にあるカルデラ湖で、面積11km<sup>2</sup>、深度233mの広大な湖です。湖畔にたずんで何が出来るのだろうとしばし呆然としたことを覚えています。湖の調査は湖だけでなく、集水域も調べなければなりません。まず、湖に流入する河川や周辺の湧水を50ccのバイクに乗って調べました。南国の日差しは強く、たった1日で両腕に細かい水疱ができました。それよりも不安だったのは、果たして十分な結果を得ることが出来るかどうかでした。幸いなことに、鹿児島大学や南薩農業水利事業所などの多くの人たちが支援してくれました。特に、先輩でもある鹿児島大学の塚田先生からは、「自分が信じた道を一步步進みなさい。倦まず弛まず少しずつ進めば必ず先が見えてきます。」とアドバイスされ、何とか結果を出すことができました。

その後、アフリカやアラビア半島、中国などで危険な場面に何度も遭遇しましたが、池田湖を前にしたときの不安感は、今も忘れることができません。しかし、多くの人に支えられ励まされて頑張れたことは、大きな自信となりました。

入道雲を見ると、体の中に何か新しい力が湧いてくる気がします。鹿児島の青い空にそびえ立った入道雲を思い出します。お世話になった塚田先生は、昨年お亡くなりになりました。もう恩返しはできませんが、後輩や学生の皆さんにその恩を送っていこうと思います。教職のすばらしいところは、自分が受けた学恩を恩師に返さなくても、子どもたちに返せることです。

鹿児島の夏は、つらく厳しい夏でした。しかし、いい夏だったと思っています。

学長 佐藤芳徳



修了生からの  
お便り



## 宝物の2年間

算数の授業で、具体物はそれなりに扱うことができても、それが必ずしも数の念頭操作につながる子を担当した経験から、子ども達はどのように数を理解していくのだろうか？という疑問を持ちました。そのような現職での課題について深く学びたいと考え、現職派遣で大学院へ行きました。

学習臨床コースで過ごした2年間は、私にとって宝物の2年間です。まず、子どもの学習過程の見方が大きく変わったということです。特に、算数では、子ども達が知っている全てのことに意味があることを知りました。一見誤答と思えるものにも、そうな理由があることを知りました。目からうろこが落ちるような思いを数多く体験させていただきました。

また、多くの人の出会いがありました。丁寧に指導をいただいた布川先生をはじめとする大学の先生方。全国や、県内様々な所から集まってきている個性溢れ、専門性の高い現職の先生方、これから教員を目指す熱意あふれる大学生の皆さん。この出会いから、多くのエネルギーをいただき、今現場での力となっています。

現在、私は、上越市立宝田小学校の教頭として、先生方の相談役となっており、先生方との相談役となっており、自分がかれまで学んできたことを、研修やT・T、サークル



磯野 和美  
(いその かずみ)

新潟県糸魚川市出身。新潟県内の公立小学校で、17年の勤務を経て、学校教育専攻 学習臨床コースへ。布川和彦教授のゼミで算数・数学教育について研究を行う。平成20年3月修了。現在は、上越市立宝田小学校にて教頭として勤務している。



ル活動等を通して、還元できるように努力していきたくと思っています。最後に……上越市にはおいしいお店がたくさんありました。食も堪能した2年間でした。

# インタビュー 大学院で輝く人

## 新聞社から上越教育大学 大学院に入学したきっかけ

私は、新聞社で教育紙を担当しています。今後、学校教育はより柔軟性、多様性を求められることを知り、またそのような状況の中、新聞も子どもたちの論理的思考などを培うツールとして年々注目をされています。そこで、平成28年度から新設されたグローバル・ICT・学習研究コースの理念が私のしたい研究と一致したので、入学しました。

## 大学院の授業

先生方の授業は本当に素晴らしく、内容もハイレベルで、興味深く、毎日驚きなので、脳がワクワクしているのがわかります(笑)。大学院は少人数で参加型の授業なので、たくさん質問して知識を深めています。

## 高等学校教員免許状(公民)の取得と理想の教師像

上越教育大学に通う学生は、教員免許を取得し、教職に就く方が大半です。実際、毎年素晴らしい実践・成果をあげていると思います。私も教員免許を取得し、今後、仕

事や研究に活かそうと考えています。免許プログラムの授業を受け、深く感じているのですが、求められる教師像とは、一般企業が求める人材とあまり変わらないと思います。

つまり礼儀、態度、問題に対処する力、何よりも相手を思いやる人格が求められます。そのような方々と多く出会ってきましたが、共通点は、皆、明るく楽観的で前向きです。

さらに教員は幅広い知識・教養も求められるわけで、そこはある意味、一般企業よりも高い目標と努力が求められると思います。なので、人を思いやり、前向きに目標を失わずに研鑽すれば、理想の教師像に近づくのではないかと考えています。

## 子育てとの両立

男性の育児参加は、日本ではまだ珍しいと思いますが、子育てをしながら大学院に通うという、とても貴重な経験をしています。現在、妻は大阪で仕事をしていますが、妻はいつも私を理解してくれ、支えてくれているのでとても感謝をしています。

仕事一筋でやってきた私が、育児と学業を両立すると決めたと、職場の上司や後



大学院1年(免P)  
グローバルICT  
学習研究コース  
高橋 宏輔さん

輩たちからも大変驚かれました。しかし、現在所属している研究室の先生が、入学前より研究や子育てなど親身に相談にのってくださいましたので、安心して両立に挑めました。

また、上越教育大学は、大学敷地内にある世帯用宿舎を提供してくれていますし、奨学金などでも大学が親身に相談・サポートをしてくれています。

女性男性に限らず、育児は容易ではありません。地域、所属(会社、大学)、家族の協力が必要です。その点、上越教育大学附属幼稚園や上越市は、子どもを預かってくれますし、他のサポートがしっかりしています。また自然が豊かなので、子どもたちが生き物などに興味を持ちました。育つ環境としては最高ですね。そういったことも含めて本当に来てよかったです。



## インタビューを終えて

高橋さんが、本学大学院で目標を持って学業と育児を充実しているのが分かり、安心しました。本学では、進路、経済面、学生生活など様々な相談にのっています。高橋さんのように、学生の皆様がより安心して、勉学に励めるためにサポートをしているので、何か困ったことがあったら、遠慮なく相談に来てほしいと思います。

■聞き手・文(写真左)  
財務課 赤井一繁

## 免P = 教育職員免許 取得プログラム

本学大学院入学者で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を取得することにより、教員免許状取得の資格を得ることができるプログラムです。



アンケートにご協力ください  
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。  
QRコードは(株)デンソーウェアの登録商標です。



JUEN 上越教育大学学園だより  
2016 夏 No.34 (平成28年7月発行)

編集・発行  
上越教育大学情報・広報委員会  
デザイン・監修  
安部 泰  
(芸術・体育教育学系 准教授)  
制作  
株式会社桐朋

## お問い合わせ先

上越教育大学広報課  
〒943-8512  
新潟県上越市山屋敷町1  
TEL 025-521-3626  
FAX 025-521-3627  
E-mail kouhou@juen.ac.jp  
URL <http://www.juen.ac.jp/>  
公式ホームページから、  
バックナンバーの閲覧ができます。



※本誌掲載の文書・記事・写真等の無断転載はお断りします。